

## 有識者・専門家等からの主な意見

## 1 有識者・専門家等の意見

- ・ 3つの管内での医療機関や福祉施設のクラスターが発生し、感染者数が上昇しているのが心配である。病床数も重傷者病床は減っているものの、350床を超えているのも心配である。変異株も確認されていることから、総評にあるように警戒心を高め、黙食など予防策の徹底が必要と考える。
- ・ 「総評②」にあるように、積極的にPCR検査に取り組むとよいのではと思う。また、医療関係者・高齢者へのワクチン接種については進んでいるのか気になる。進んでいないのであれば国への要望を強めることも必要ではないか。
- ・ 集中対策期間終了後、新規感染者数の減少傾向が下げ止まりにある中、感染力が強まる可能性のある英国型変異株への感染が道内で確認されるなど、人々の移動や飲食の機会が増加する年度替わりの時期に向けて、更なる感染拡大が懸念されることから、道民の方々に引き続き緊張感を持った行動をお願いする必要があると考える。
- ・ また、札幌以外での感染の拡大傾向が見られ、その発生状況は医療機関や福祉施設でのクラスター事例が多いことから、早期の抑え込みを徹底するとともに、発生市町村や近隣市町村における類似施設の従事者に対するPCR検査等を予防的に実施することを検討すべきと考える。
- ・ 十勝、釧路をはじめ北海道各地で感染の可能性が高まっている。かつての旭川の医療切迫の状況を他の地方都市で起こさないためにも、また人の移動が多い時期のため、北海道全体で感染の再拡大防止に取り組むことが重要と考えに賛成する。変異株については道民の関心は高いので検査結果の速やかな情報発信をお願いしたい。
- ・ 感染状況は下げ止まりか、むしろ増えている印象があり、今後も注意が必要。変異株の監視体制を強化する必要がある。全症例のスクリーニング検査ができる体制をお願いしたい。
- ・ 異論なし。北海道のこの方針が、正しく道民に理解されるような広報が必要。

## 2 関係団体の意見

- ・道の集中対策期間が終了した先週と比べて、「新規感染者数」などの各種指標が悪化し、「警戒ステージ2以下」という目標から大きく遠ざかっている現状を踏まえ、道民や事業者が「励み」を感じながら、「感染者数の減少」に前向きに取り組めるようなメッセージの発信をお願いしたい。感染者数が再び増加に転じていることで、道民や事業者に「あきらめ感」や「先の見えない不透明感」が広がり、感染防止に対する意識の低下や消費マインドの低下につながることを懸念している。
- ・特に札幌市以外の地方中核都市における医療・福祉施設でのクラスターが目立ってきている。例えば、ワクチン接種について医療・福祉施設に入院・居住する高齢者を優先するなど、専門家の知見も踏まえて、対策を検討していただきたい。
- ・「変異株」について、従来の新型コロナウイルスとの違いや、感染防止に向けて特に留意する点、感染後の対応などについて、専門家の知見も踏まえつつ、詳らかにしていただき、道民や事業者の不安を軽減するような取り組みをお願いしたい。
- ・これから就職・進学や人事異動等で人が移動する時期を迎える。「年度末・年度始めにあたっての感染防止行動」の徹底について、改めてメッセージを発信いただき、道・国・市町村の職員の移動に関しても、周知に万全を期していただきたい。
- ・感染経路不明割合は減少しているものの、病床数、療養者数、検査陽性率、新規感染者数などが増加していることに懸念。
- ・今後の対策として、感染防止対策の徹底とはなっているが、道民に向けた強いメッセージを発することが必要ではないか。